

社会福祉法人 京都光彩の会 光彩だより

令和3年秋号



京都光彩の会後援会のお願い



利用者インタビュー

- ・西山高原工作所
- ・グループホーム賀陽



地域交流



- ・京都市朱雀工房（就労移行支援・就労継続支援B型・就労定着支援）
- ・京都市中部障害者地域生活支援センター「なごやか」
- ・こころのふれあい交流サロン「なごやかサロン」
- ・ワークステーション かれん工房（就労継続支援B型）
- ・相談支援事業所 こうさい（計画相談支援）
- ・西山高原工作所（就労継続支援B型）
- ・グループホーム賀陽、山ノ内、光（共同生活援助）



巻頭言

「野地芳雄さんの夢と愛」

京都光彩の会の育ての親が上村啓子さんなら、産みの親は野地芳雄さんです。野地さんは、病苦と差別と孤立に悩む家族を組織し、地道に、全国的に活躍されてきました。その野地さんが米寿を迎えられました。先日お会いし、精神障害のある人たちの「ふれあいサロン」の重要性を九十分間、情熱的に語られました。

たしかに、精神障害のある人の「生活の質」は、個性を発揮し障害特性に合った「働く場」と、衣食を営み、ほっとくつるぐ「住まいの場」と共に、安心して出会い、対話し、つながりを創り出す「交流の場」が、バランスよく総合的に豊かなことになることで保障されます。

精神障害のある人の「生活の質」の現状は、関係者の努力により、メニューとしては確保されましたが、未だどの点でも不十分なままです。たとえば、就労継続支援B型事業所やグループホームの経営は、職員の低い労働条件によって支えられています。そこに加えて、地方自治体の財政危機が、「ふれあいサロン」を縮小する方向に向かうのではないかと、という危機感が野地さんにあるのです。

精神障害のある人にとって、交流に歩み出すことは、「蝸牛の角出し」に譬えられるほど、デリケートであり、専門的寄り添いやタイムリーな受容と言葉かけが不可欠です。しかし成果を数値化しがたく、単なる「たまり場」として軽視されがちです。野地さんは、「歴史的社会的認識」を踏まえつつ、「ふれあいサロン」の意義を、行政担当者に伝える責務を果せと、私にハツパをかけたのでした。

あるとき、野地さんに、「なぜそんなに元気なのですか」と訊くと、即座に、「それは義憤があるからです」と応えられました。ただ私は、当事者の「人としての尊厳」が尊重される社会に変革するぞという《夢》、および、幾多の当事者と家族に心を寄せ、一人ひとりから厚く慕われる野地さんの《愛》が、野地さんの元気の源だと信じています。そして野地さんの精魂の澆刺さに元気をもらっています。

社会福祉法人 京都光彩の会

理事長 加藤 博史



京都光彩の会後援会のお願い

『精神障がいのある人たちが、ふつうの市民として、地域で暮らし、働き、社会に参加していくことを支援する』ことを目的に各事業の運営や計画実施を行っていきたいと思います。

趣旨にご賛同いただき、後援会にご加入いただいた皆様、誠にありがとうございます。皆様のお気持ちを受けて職員一同、今年度も事業運営に邁進してまいりたいと思います。

また今後も新規に法人の活動にご賛同いただき、ご支援いただける方々のご加入も随時承っておりますので、何卒ご協力のほどよろしくお願いいたします。





京都光彩の会 利用者インタビュー

皆様に京都光彩の会のことをもっと知っていただくために、各事業所の利用者の方にインタビューを行いました。
今回インタビューを受けてくださったのは、西山高原工作所、グループホーム賀陽の利用者さんです！

西山高原工作所

＼Ｙさん＜2008年3月＞利用

Ｑ1. 西山に繋がったきっかけ

・ 整骨院で十年位働いていたころ、患者さんから文句を言われ（へたくソなど）気になりだし発症。仕事を辞め自宅療養していたがあるとき新聞で見つけた心の相談に電話し朱雀工房と繋がった。お茶の葉の袋詰めやＴ字帯の配達などして一年で卒業。その後西山に came。西山では商品券の仕事や印刷の仕事をしてきた。

Ｑ2. Ｙさんにとっての西山とは？

・ 「心の平安を保てる場所」として利用している。家でひとり居ると幻聴が聞こえてくるが、作業に集中していると忘れることが出来る。
・ 行き帰りを徒歩一時間かけることで体も健康でいることが出来る。
・ 心身ともに健康でいれる場所
・ 年に一度の年賀状イラスト描きが楽しみです、色鉛筆で何か描いていると楽しい。毎年九月十月になると絵を描く時期かなーと。自分にとって特別な作業。



Ｑ3. 成長したなと思うところは？

・ 自分で自分の心をコントロール出来るようになった。呼吸を整えて前向きに考えることが出来る。

・ 人間関係を良くする。たとえこじれかけてもおさまるまで待つことが出来る。

Ｑ4. これからの目標は？

・ 今やっていることを一生懸命やっていくこと。

へスタッフより＜

一年間を通して安定して通われています。

新しく加われた仲間にも優しく話しかけ、和ませてくださっています。毎年、年賀状のイラスト描きを募集していますが、Ｙさんにとって特別なものであったということは、このインタビューで知った新たな発見でした。

＼Ｍさん＜2019年4月＞利用

Ｑ1. 西山に繋がったころのこと

・ 何も話せなかった。（声を出すことが出来なかった。）通信制の学校に通い始めたころからは親とも話せず（「あー」も言えない状況だった）高校卒業を間近に控え、何か出来ることはないかと親に筆談で伝え探してもらい、就労センターに繋がりが勤められたＢ型事業所の西山の見学と

なった。見学時もほとんど母親が代わりに話してくれていたのを思い出す。

Ｑ2. 作業について

・ 箱折りや佃煮包装の仕事は好きではまったが、うんちヨコ（駄菓子）の作業は眠くなるので嫌いだった。

・ 週二回午前のみ、週四回午前のみ、午後利用を増やしていく、週四回フル、週五回フル

初めのころは周囲の声や音が気になる、早退することもあったが、週五回にしてからは調子よく通うことが出来るようになった。

Ｑ3. 成長したなと思うところは？

・ 人と話せるようになったことが大きい。学校時代いろいろあつて、自分が話している内容を人に聞かれるのが怖いと思うようになっていた。今もまだ自分から話すことは苦手だが、作業のことなど話す目的がはっきりしていることについては話せるようになった。（趣味の話などは苦手）

・ 長時間外に出来る体力がついた。これまでは布団の中で過ごすことがほとんどで、人ごみに行くと幻聴が聞こえ、すぐパニックになっていた。西山に通い始めた頃は作業することだけで精一杯だったが今は「〇個を〇分で頑張ろう」など自分で目標を作り取り組んでいる。

・ 今までは外出も母親と一緒にであったが一人で出かけられるようになった。

Ｑ4. これからの目標は？
就職して母を安心させたい。

へスタッフより＜

一言も話されない期間も長かったですが、環境に慣れた頃から少しずつ「自分」を表現されるようになり作業の好き嫌いで態度が変わるといふこともありました。現在はどんな作業にもしつかり向き合い、周囲の状況も見ながら取り組むことが出来るようになり、ただいま就職に向けて実習中です。

今年も年賀状のご注文、お待ちしております！





グループホームかよう

GH 賀陽

グループホーム賀陽は、京都市の中京区にある男性と女性が共同でお住いのグループホームです。今回は、グループホーム賀陽に入居されているAさん（女性）にグループホームでの生活についてインタビューしました。

Q1. 普段はどんなことをして過ごされていますか？

日中は仕事。仕事が休みの日はスマホで動画を見たり、友達と遊びに行ったり。

Q4. 好きなことは何ですか？

アニメやドラマを見るのが好き。ちょっと前は鬼滅の刃にハマっていて、今は東京リベンジャーズを見たいと思ってる。

Q7. GHでの生活の中で良かったことはありますか？

やっぱり手作りの夜ご飯がうれしい。誕生日は好きなメニューをリクエストして作ってもらった。あとは掃除が苦手なので、一緒にしてもらえたこと。

Q9. 今後GHでやりたいことはありますか？

コロナでレクリエーションがなかなか難しいけど、いつかみんなでボウリングに行きたい。

Q2. お仕事について詳しく教えてください。

食品関係の工場に週3日勤務(コロナが流行る前は週4)。高校を卒業してからずっと同じところで働いてる。しんどいと思うことはあるけど、職場の人はみんな優しく、辞めたいと思ったことはありません。

Q5. GH賀陽入居までの話を聞かせて下さい。

賀陽以外のGHもいくつか見学に行った。賀陽は夜ご飯を作ってもらえるし、会社からも近くていいと思った。河原町にも近いし、交通の便がいいからユニバにも行きやすい。

Q8. GHでの生活の中で悪かったことや大変なことはありますか？

男女共同なので、トイレの使い方が気になる。便座は下げて欲しいとか。

Q10. 今後の目標を教えてください。

とりあえず仕事は続けていきたい。いずれは結婚して別のところで暮らしたいです。

Q3. お仕事はコロナの影響を受けましたか？

コロナが流行ってから仕事量が減って、自由な時間が増えた。仕事で稼いだお給料は遊びに使う。美味しいものを食べたり、洋服や化粧品を買ったり。

Q6. GHでの思い出を教えてください。

コロナが流行る前実習生が来たら、リビングで一緒にカラオケをした。あとはレクリエーションでみんなで焼き肉を食べにいたりしました。

仕事がある日のスケジュール

- 06:30 起床(二度寝)
- 07:00 準備
- 07:40 出発
- 08:00 職場に到着
- 08:15~17:30 仕事
- 18:00 帰宅

そのあとは夕食を食べたり、スマホで動画を見たりして過ごす。

地域交流

ライオンズクラブ 桂川清掃活動報告

2021年10月3日、爽やかな秋晴れの下、当法人の各事業所の利用者・メンバー、職員約30名が、ミレニウム・ライオンズクラブの桂川清掃活動に参加させて頂きました。嵐山公園中之島地区を中心に松尾橋まで移動しながら清掃作業に取り組みました。恒例の作業後のバーベキューは、今年も新型コロナウイルス感染症予防の観点から中止となりましたが、ミレニウム・ライオンズクラブから、プリンを提供頂き、帰宅後に美味しく頂きました。細やかなお心遣いに感謝致します。



今年もバナナの寄付をいただきました。

2021年10月、新型コロナウイルス感染症が広がりを見せる中、株式会社朱常分店(京都市下京区)様より、京都市朱雀工房、かれん工房、西山高原工作所、グループホーム賀陽・光・山ノ内に、バナナが届きました。株式会社朱常分店様は、1959年より毎年2回、「京都市内の社会福祉施設を利用されている方々のために」と、京都市にバナナの寄付を続けておられます。「そのときにいちばん美味しい旬のバナナを」と吟味して下さっているとのこと、メンバーの中には「今回はどこの国のバナナかな」と楽しみにしている方もおられます(今回はフィリピンから届いたものでした)。変わらぬご厚情に、心より感謝申し上げます。



利用者大募集!!

就労 移行支援 就労 継続支援B型

京都市朱雀工房、西山高原工作所、ワークステーションかれん工房では上記の利用者様を募集しています。お気軽にご相談ください。

広報委員会 委員

田中 稔一(支援センター「なごやか」)
都竹 桃子(ワークステーション かれん工房)
高橋 恒明(京都市朱雀工房)
中村 美恵(支援センター「なごやか」)
黒田 優子(西山高原工作所)
松岡 芽以(グループホーム 賀陽・山ノ内・光)



編集後記

今年はずいぶん暑い日が続いてきましたが、ようやく秋が深まり寒さを感じる季節に移りかわって来ました。木の葉がオレンジや赤と色づき、京都の名所でライトアップが始まっています。

お待たせしましたインタビュー第二弾!!ご協力いただいた西山高原工作所とグループホームの利用者さんありがとうございました。

西山高原工作所ってどこにあるの?決して高原にあるのではなく、五条通りの桂川近くにありまして。グループホームってどんなところってまだほんの一部にすぎません。

法人の魅力をいかにして知っていただくことを考えています。読み手があってこそ、広報委員会も毎回、励みになります。ぜひ感想をお聞かせください。

紙面上でお伝えできないこともありWEBサイトにて日々更新していきますのでご利用ください。

さて秋と言えば〇〇です。みなさんは何を連想してどんな言葉を使いますか?食欲・読書・スポーツ・衣替えなど、美味しいものがいっぱい、そして過ごしやすい季節になりました。

訪問の際、交通機関を利用するよりも自転車派の私です。京都市内の特徴は暮盤の目になっていきます。「京都の通りの数え唄」が有名です。

最近では車道の左側に自転車専用のレーンが作られています。知っていましたか?本来、自転車は歩道を走れないのですよね。自転車で季節を感じられ、暑い夏から心地よい風を感じています。時には気になるお店を発見します。仕事ではなければ寄り道したいくらいです・・・

冬号はまた違った「光彩だより」をお届けいたします。(中村)

利用者と向き合い、寄り添い、共に考え、共に歩む そして誰もが人生の主役に



社会福祉法人 京都光彩の会

Social welfare corp KYOTO kosainokai, Inc

〒604-8854 京都市中京区壬生仙念町30番地 京都市地域リハビリテーション推進センター1F

TEL : 075-813-0501 FAX : 075-813-0520
URL : <http://kyoto-kosainokai.jp>



社会福祉法人京都光彩の会 光彩だより
発行: 京都光彩の会 広報委員会
発行責任者: 中條 了
印刷: 西山高原工作所